

復帰50年！ 5. 15沖縄平和研修その3

○沖縄県平和祈念資料館

沖縄戦では、日本軍による虐殺や自決の強要、米軍による艦砲射撃や爆撃、火炎放射など、正に地獄のような有様でした。当時の道具や集めた証言、写真の展示から沖縄住民の受けた苦しみを感しました。また、戦後の米軍統治時代や米軍基地の問題など、現在まで繋がる沖縄への負担を学ぶことができました。

○不屈館(ふくつかん)

占領軍の弾圧を受けながらも闘い抜いた、瀬長亀次郎の資料館です。米軍統治下の沖縄で、民衆のために不屈の精神で闘った亀次郎の資料が展示されています。

○糸数アブチラガマ

沖縄戦で住民の避難場所や日本軍の施設になっていた、長さ約270メートルの天然の洞窟(ガマ)です。約600名の負傷兵が運び込まれましたが、戦況の激化で南部へ撤退する際、重症患者が置き去りにされました。ガマの中は日光が届きません。助かる見込みもなく、ケガで自由に体も動かせない。負傷した仲間のうめき声を聞きながら、暗闇の中、水も飲めない苦しみを想像すると、改めて戦争の悲惨さを感じました。

東労組の仲間と平和祈念資料館



東労組の仲間と不屈館へ



糸数アブチラガマ



沖縄の地で実際に体験することによって学んだこと、感じたことを全国から参加した仲間と議論し、平和への想いをより一層深くすることができました。現在ロシアがウクライナへの軍事侵攻を続けていますが、戦争で被害を受けるのは、いつの時代も変わらず、我々労働者や女性、子供などの社会的弱者です。その本質を心に刻み、これからの平和運動に繋げていきます。